

こまき検定 問題一覧と解説文

次の60問の中から、検定当日30問を出題します。 内の解説文を
しっかり読んで、学習をしましょう。

- 1 国道155号の上^{かみずえ}末^{しゅう}交差点付近に、上末^{じょう}城^{あと}の跡^{きず}があります。上末城^ぶを築いた武^{しゅう}将^{うつ}の子孫は小牧原新田に移り、入鹿^{いるか}六^{ろく}人^{にん}衆^{しゅう}の1人として、入鹿池^{つく}を造るのに力をつくしました。この人物はだれでしょう。

上末^{かみずえ}城^{じょう}は、落^{おち}合^あ勝^{かつ}正^{まさ}によって、文^{ぶん}明^{めい}年間(1469～86)に造られました。勝正の子孫である落^{しん}合^ぱ新^{ちろう}八^う郎^つは、入鹿^{いるか}六^{ろく}人^{にん}衆^{しゅう}の1人として入鹿池を造るのに力をつくし、その後小牧原新田に移り新田開発に努めました。

- 2 「北里」という地名の「北」は、元は西^{にし}春^{しか}日^す井^が郡^{いぐん}の北に位置する村ということでつけられたといわれています。では、「里」の由来は何でしょう。

北里の特産物の「えびいも」というさといもからきています。「えびいも」は、えびのように曲がった形の高級なさといもです。つまり元西^{にし}春^{しか}日^す井^が郡^{いぐん}の「北」にある「さと」いもが特産の村ということになります。

- 3 小牧市街^{しがいち}地^ちと桃^{とう}花^か台^{だい}ニュータウンを結ぶ新交通システムが開通し、平成18年(2006)まで列車が走っていました。この路線の愛^{あい}称^{しやう}は、何だったでしょう。

新交通システム(愛^{あい}称^{しやう}:ピーチライナー)は、駅員を小牧駅と桃^{とう}花^か台^{だい}センター駅の2駅のみにおき、残りの5駅は無人駅でした。すべての駅にホームドアが設置され、転落^{せつち}を防止^{ぼうし}していました。桃花台ニュータウンの人口が予想していたほど増えなかったなどの理由から赤字が続き、廃^{はい}線^{せん}となりました。

- 4 小^こ木^き地区にある宇^う都^つ宮^{のみや}神社にまつられている神様は、何でしょう。

宇^う都^つ宮^{のみや}神社は、「1504年に織田宰^お相^{ださいしやう}が越^え前^{ぜん}国^{のくに}から移^い住^{じゅう}のときに、下^{しも}野^{つけ}の国宇都宮^{うつ}を遷^{うじがみ}して氏^う神^{じん}とあおいだ」と伝えられています。まつられている神様は、大名持神、天^{おお}照^{なもち}皇^{あま}大神^{てらすめ}、少^{すく}彦^{なひ}名^{この}神^{のかみ}です。

5 小木古墳群の中で一番大きい宇都宮神社古墳は、どんな形でしょう。

宇都宮神社の場所にあり、県指定史跡になっています。現存する規模は、全長 59 m、後方部一辺 34 m、高さ 6.5m の前方後円(方)墳で、小木古墳群の中で一番大きな古墳です。小木古墳群は、3 世紀末から 4 世紀につくられ、尾張北部では、犬山市の東之宮古墳の次に造られた古墳群で、4 世紀には小木周辺が有力な豪族に支配された地域であったことがわかります。

6 久保一色の庚申寺には、狛犬ではなく、ある動物の像が本堂前に置かれています。この動物は何でしょう。

庚申信仰とは、江戸時代に各地に広まった信仰です。農業の神・泥棒除けなどの神として人々の信仰を集めました。本堂の前には、狛犬ではなく、三つの猿の像（見ざる・言わざる・聞かざる）が置かれています。

7 上末の貴船神社境内にまつられていて、市の天然記念物に指定されている、樹齢推定 300 年の巨木といえば何でしょう。

貴船神社のアベマキは尾張地域の中で最も大きなもので、高さ約 25m、幹周り約 4.6m にもなります。県内で 2 番目に太いアベマキです。平成 22 年(2010)に市の天然記念物に指定されています。

8 味噌岡地区には小松寺という寺があります。この名前の由来となった小松殿と呼ばれた人は、どの一族の人でしょう。

承安 3 年(1173)、平清盛を父とする小松内大臣の平重盛が、寺を直して、寺に土地を寄進したことから小松寺と名付けられましたと言われています。また、味噌岡庄と呼ばれたその土地はその後 2 つに分かれ、味噌岡新庄と味噌岡本庄となりました。これが、現在の本庄という地名のもとになっています。

- 9 昭和30年(1955) 1月に市制が施行しせい せこうされました。このとき、3町村が合併がっぺいして小牧市となり、県下21番目の市が誕生たんじょうしました。小牧町・味岡村あじおかと共に合併した村はどこでしょう。

昭和28年(1953)から町村合併がっぺいの聲が高まり、小牧町・味岡村あじおか・北里村の3町村が話し合いを進めました。その後、北里村が合併を見送ったものの、篠岡村しのおかが加わって小牧市が誕生たんじょうしました。10年後の昭和38年(1963)には北里村の一部が小牧市に合併し、現在げんざいの小牧市となりました。

- 10 「小針」おばりという地名は、「尾張」おわりの語源ごげんになっています。「はり」はり はり(針・張)が表す意味は何でしょう。

開墾かいこんした田畑を「はりた」といい、墾田・治田・針田・張田などと書きました。「はり」には、「開墾」という意味がありました。小針はかつて「小治田の里」おばりと呼ばれ、古代豪族尾張氏ごうぞく おわりの祖先そせんをまつた尾張神社があることから、この辺りは尾張氏によって開拓された土地で、古代から集落が存在そんざいした地域ちいきであると考えられます。また、参道入口には「尾張名 称 発 源 之 地」めいしょうはつげん の ち ひの碑が建てられています。

※開墾・・・新しく土地をひらくこと。

- 11 明治時代から昭和にかけて、久保一色くぼいしきの陶芸家とうげいかである仙田市兵衛・佐太郎親子せんだいちべえ さたろうが農業のかたわら、作った焼き物は何と呼ばれているでしょう。

恵比寿えびすや武将像ぶしょうぞうや兵隊など、土でできた雛人形ひなが作られました。焼き上がった素焼きの雛ぬに和紙をはり、真っ白に塗った後に色づけし、ニスぬを塗って仕上げたものを土雛つちひなといい、近郊きんこうの農家だけでなく、犬山などの尾張北部おわり はんばいでも販売されていました。

- 12 北里小学校は、かつて2つの小学校を統合して北里尋常小学校としてつくられました。いつでしょう。

明治41年(1908)2月に北里第一尋常小学校(元 小木尋常小学校)と北里第二尋常小学校(元 尾張尋常小学校)が統合され、北里尋常小学校がつくられました。そして同年3月に高等科も置いて、北里尋常高等小学校と呼ぶようになりました。

※尋常小学校、尋常高等小学校・・・明治～第2次世界大戦がはじまる前まであった学校制度。

現在の小学校1年生～中学校2年生にあたる。

- 13 岩崎山の南にある公園(岩崎児童遊園地)は、明治時代に開校された学校の跡地につくられました。その学校の名前は、何でしょう。

岩崎学校は、明治10年(1877)に開校し、岩崎尋常小学校と改名され、明治40年(1907)までこの場所に置かれました。のちに岩崎尋常小学校・味岡尋常小学校・久保一色尋常小学校の3つの学校が合併し、味岡高等尋常小学校となりました。

- 14 岩崎山にある市指定の有形文化財である切支丹灯籠には、十字架の形に見える部分があります。それはどこでしょう。

現在の位置に移す前は、岩崎山南側にある民家の庭にありました。この灯籠の火袋を支える柱の中央部にふくらみがあり、十字の形となっています。平成2年、岩崎山の観音堂へ移されました。

※火袋・・・灯籠の火をともしところ。

- 15 小牧山の南に城下町をつくったのはだれでしょう。

永禄6年(1563)に織田信長が小牧山に城をつくりました。その際、小牧山南側に城下町をつくったことが、発掘調査の結果からわかりました。

- 16 野口、林、池之内、上末、大草などの篠岡地区には、弘法大師をまつる弘法堂が多く見られます。弘法大師の命日である4月21日前後には弘法様のお祭りとしてにぎわいます。では弘法大師と言われた人はだれでしょう。

弘法大師とは、真言宗を開いた僧侶である空海のことです。小牧市内には空海をまつる弘法信仰が古くから受け継がれています。特に篠岡地区は弘法堂が多く見られる地域です。

- 17 野口にある関無院は、昔、尾張藩主の徳川義直が狩りをしたある動物をとむらうために建てられた寺です。この動物は何でしょう。

地元には、次のような言い伝えがあります。尾張藩の初代藩主の徳川義直は、猿投山で狩りをしたとき、家来に猿を弓で射るように命令したそうです。猿のお腹には子どもがいたので、家来は狩りのあと、猿をとむらう小さな草庵をつくりました。それを聞いた義直が、感激して建てたのが関無院だそうです。

- 18 篠岡地区の県道荒井大草線の大山川にかかる橋の名前は「記念橋」といいます。この名前はあるできごとを記念して名付けられました。そのできごとは何でしょう。

記念橋は日露戦争で勝ったことを記念して名付けられました。今は昭和52年(1977)に完成したコンクリートの橋ですが、本庄から上流ではただ一つ付け替え前の橋脚が残っています。

- 19 大正9年(1920)には岩倉・小牧間に鉄道が開通し、小木駅がつけられました。その線路も、昭和39年(1964)にはなくなり、今はバスでつながっています。この鉄道を作った会社は何というでしょう。

小木地区は大正時代はじめの耕地整理により、蛇行していた三本の川(巾下川、矢戸川、境川)の流れが変わりました。大正9年(1920)には岩倉・小牧間に名古屋電気鉄道の線路が開通しました。昭和39年(1964)に廃止になり、線路跡地はバス路線となりました。小木小学校北西の橋は道路化された昭和39年(1964)建設の文字が銘板で確認できます。

- 20 明治時代に、篠岡地区ではのぼり窯で焼き物が作られていました。その焼き物は何と呼ばれていたでしょう。

明治時代、篠岡地区で作られていた焼き物が大山焼です。明治5年(1872)ごろから生産が始まり、明治30年代半ばには大量に作られました。大山地区で掘られた陶土を使い、のぼり窯で湯飲み、茶碗、どんぶりなどが焼かれていましたが、明治の終わりごろには作られなくなり、残念なことに、明治43年(1910)に廃業となりました。

- 21 池之内と本庄の境あたりを流れる大山川に、陣配橋という橋がかけられています。陣配というのはこの付近の地名で、ある武将が小牧・長久手の戦いのときに陣をおいたことから、そう名付けられたと言われている。この武将はだれでしょう。

陣配の地名は、小牧・長久手の戦いのとき、羽柴秀吉がこの場所に陣をおいたことに由来すると言われている。

- 22 天正12年(1584)、小牧・長久手の戦いで、徳川家康と対峙した羽柴秀吉はどこに拠点を置いたでしょう。

羽柴秀吉は、大坂城、岐阜城、犬山城、楽田城へと軍を進めました。家康が小牧山城に入ると、秀吉は楽田城に入り、互いに相手の様子うかがったまま持久戦となり、長久手の戦いが起きた後、秀吉と家康は和睦し、小牧・長久手の戦いは終わりました。

- 23 小木四丁目にある世尊寺は、ある寺の跡であると伝えられています。織田信長の家老をとむらうために建てられた、この寺の名前は何でしょう。

天文22年(1553)、織田信長の家老、平手政秀が信長の行動をあらためさせようとしたが、変わらなかったために自ら命を絶しました。翌年、信長は政秀をとむらうために小牧山の南、北里村小木に政秀寺を建てたといわれています。慶長17年(1612)、政秀寺は現在の名古屋市中区栄に移転しました。その跡地に建てられたのが世尊寺と伝えられています。

- 24 市内で一番高い北東山間部から大山川が流れる大山・野口地区で、6月初旬から中旬にかけて流域で見られるホタルは何ホタルでしょう。

大山川源流近くはホタルの里と呼ばれています。毎年6月上旬から中旬にかけて、ゲンジボタルが飛び交う風景を楽しむことができ、市民の心をいやしています。

- 25 郷中にある龍徳寺の山門は、「閉めずの門」と言われています。名前の由来は、門やとびらを閉めないことからきています。どうして閉めないのでしょうか。

龍徳寺には、「たん十」といういたずら狸の話があります。「たん十」のいたずらに困っていた村人は和尚にその解決を頼みました。和尚が不動尊に祈ると、「天狗を送って懲らしめてやる」とお告げがありました。「たん十」がいたずらをする、と天狗が寺へ現れ「たん十」を懲らしめましたが、毎回山門を開けてもらうのは、面倒ということで、「門は開けたままがいい」と言ったそうです。それ以来、門は閉めないということです。
※不動尊・・仏教の信仰対象。不動明王、お不動さんなどとも呼ばれる。

- 26 小牧山にある小牧市歴史館は、城の形をしています。この形のモデルとなった建物は何でしょう。

小牧市歴史館は、名古屋の実業家から寄贈されたものです。豊臣秀吉が京都聚楽第に建て、のちに西本願寺に移された飛雲閣をモデルに昭和43年(1968)に建てられました。

- 27 小牧市のシンボルである小牧山の高さは何mでしょう。

市街地の西側にあり、85.9mの高さがあります。江戸時代、尾張徳川家が直接治める土地となって開発されずに守られていたため、良好な状態で城の跡などの遺跡が残っていました。最近の発掘調査で織田信長が築いた3段の石垣などが発見されました。

- 28 ^{うわかいどう き そかいどう しゅく しものちょう} 上 街 道（木曾街 道）の ^{しゅく しものちょう} 小牧 宿 の ^{しものちょう} 下之 町 にある「^{きふけん}岸田家」などには、^{ぼうか} 防火の神様が屋根にまつられたところがあります。これを何というでしょう。

^{やねがみ} 屋根神は、^{ぎふけん} 屋根の上にまつられたほこらで、^{ぎふけん} 愛知県や岐阜県などで見ることができます。^{ぼうか やく} 防火や厄よけを願ったり、^{うじがみ} 氏神などをまつったりしています。最近^{た か} は建物の建て替えなどにより、^お 地上に降ろされたところ、^{とくせつ} 特設の台を屋根の高さに作ってまつてある場合も見られます。祭りのときは^{ちようちん かざ} 屋根神に提 灯が飾り付けられるとともに、^{だし} 山車が町内をねり歩くと、^{きとう} 屋根神のところでとまって祈 祷します。そのため山車の高さ^{きとう} と屋根神の高さが合っているのだそうです。

- 29 ^{いわさき くまの} 岩 崎 山の ^{くまの} 熊 野 社 にある大きな岩は、^{くまの} 県の天然記念物に指定されています。この岩は何と呼ばれているでしょう。

^{いわさき くまの} 岩 崎 山の ^{くまの} 熊 野 社の ^{けいだい} 境内にある ^{まい} 五枚岩は、^{あつ} 厚さ70cm～2.5m、^{おくゆ} 奥行きが10mもある大きな ^{まい} 5 枚 の岩です。昭和35年(1960)に県の天然記念物に指定されました。

- 30 ^{ふじしま} 藤 島 地区にある ^{けんりんじ} 賢 林 寺 の ^{ほんぞん} 本 尊 は ^{ゆうけいぶん かざい} 県の有 形 文化財に指定されています。その本尊は何でしょう。

^{けんりんじ} 賢 林 寺 は、^{そうけん} 創建が ^{けんえい} 建 永 元年(1206)と伝えられる ^{てんだいしゅう} 天 台 宗 の寺です。^{ほんぞん} 本 尊 である ^{ざこう} 座 高 80cm ほどの ^{きんぱく} 金 箔 が ^{もくぞう} ほどこされた ^{かん} 木 造 ^{かん} 十一面 観 音 ^{ぼさつざう} 菩 薩 坐 像 は、^ひ 秘 仏 であり、^{ふだん} ふだんは見ることはできません。^{かん} 十一面 観 音 像 の ^{ざざう} 座 像 は全国的にもあまり見られないものです。平安時代前期に作られたと言われています。

- 31 ^{げんざい たがた} 名鉄小牧線には、^{げんざい たがた} 現 在、^{しょうわ} 田 県 神社前駅があります。しかし、^{しょうわ} 小牧・犬山間が ^{しょうわ} 昭 和 6 年(1931) 4 月に開通したときは、^{ちが} 駅 名 が違 っていました。何という駅名だったでしょう。

名鉄小牧線の ^{げんざい たがた} 小牧・犬山間は ^{げんざい たがた} 昭 和 6 年(1931)に開通し、^{げんざい たがた} 現 在 の ^{しょうわ} 田 県 神社前駅は、^{くぼいしき} 当 時 は久保一色駅という名前でした。^{しょうわ} 昭 和 19 年(1944)から ^{しょうわ} 昭 和 40 年(1965)まで ^{はいし} 久保一色駅は ^{はいし} 廃 止 されていましたが、^{しょうわ} 昭 和 40 年(1965) 3 月に、^{さい} 現 在 の ^{しょうわ} 田 県 神社前駅として ^{さい} 名 前 を変 えて、^{さい} 再 スタートしました。

- 32 「野も山も みなほほえむや 田縣祭」と詠まれた田縣神社の例大祭は国の内外で有名な祭で、毎年3月15日に行われます。この祭をなんと言うでしょう。

田縣神社には、五穀豊穰などの神である御歳神と、子宝・安産の神である玉姫命がまつられています。例大祭である豊年祭では、ヒノキを使って毎年新しく作成される大男茎形を厄男達が御輿に担ぎ、行列をなします。毎年3月15日に行われるこの祭りは、天下の奇祭・珍祭として国内外に広く知られています。豊年祭のうち、大男茎形を担いで練り歩いて田縣神社に奉納されるまでの御輿行列、その出発前に行われる御前祭が平成28年(2016)に小牧市の無形民俗文化財に指定されました。

- 33 大正4年(1915)に北外山にある外山神社の東側で出土した青銅製の祭器は何でしょう。

当時、外山神社の東側の竹林で北外山青年団の人たちが溝を掘っていたときに、青銅製の銅鐸が出土し、代々、神社総代が保管をしてきました。大きさは高さ約36センチメートル、底部の長径約18センチメートルと比較的小型ですが、市内から出土した銅鐸はこの1点だけで、貴重な資料として昭和53年(1978)に市指定有形文化財に指定されました。現在は小牧市歴史館に展示されています。

- 34 昭和52年(1977)の尾張三十三所観音霊場案内図では、小松寺は、尾張三十三所観音の札所となっています。尾張三十三所観音霊場案内図で札所となっている小牧市内の寺院は、小松寺を含めて何カ所あるでしょう。

※札所・参拝のしるしとして、札を納めたり受け取ったりする所。

尾張三十三所観音霊場案内図によると、市内では小松寺、陶昌院、玉林寺、龍音寺の4カ所が札所になっています。ちなみに、小松寺の創建は天平勝宝年間(8世紀中頃)で、行基菩薩によると伝えられています。本尊は千手観世音です。

- 35 小牧市小牧の戒蔵院にある木造十一面観音菩薩立像は、古くから人々の信仰を集めてきました。親しみのある慈顔のこの像は、何時代につくられたとされているでしょう。

※慈顔・・親が子をかわいがり大事にするような愛情に満ちた優しい顔つき。

戒蔵院は小牧十観音の一つであり、まつられている木造十一面観音菩薩立像は「小牧のおかんのん」「火伏観音」として人々の信仰を集めてきました。木造十一面観音菩薩立像は像高約162センチメートルで、市内では他に等身像は見当らず、貴重な存在で、室町時代につくられたとされています。

- 36 多気中町の十二柱神社にあるシイノキの樹齢は約何年ぐらいでしょう。

十二柱神社のシイノキは、樹齢が300年以上と推定され、小牧市内でも有数の巨木です。平成11年(1999)に小牧市の天然記念物に指定されました。代々、氏子たちの手で清掃等の環境整備が行われ、ここまで守られてきました。300年前というと、江戸時代の中期の享保時代頃になります。

- 37 北里地区にある「藤島」「多気」という地名から、この地域が昔どのような土地だったことが分かるでしょう。

北里地区は、小牧でも最も標高が低い地域です。下水処理場の「五条川左岸浄化センター」が北里地区に置かれているのもそのためです。「藤島」は、五条川のかつての氾濫原上に位置し、藤が生い茂った川中島だったことから、その名がついています。「多気」も、氾濫原にあった「大池」(おおいけ)から名が転じて、「大気」(おおけ)、そして「多気」(おおけ→たき)となったと言われています。

- 38 「尾張」という名前のうまれた場所といわれている、北里地区の小針にある神社の名前は何でしょう。

尾張神社は、旧大字小針にあり、古墳時代の豪族尾張氏の祖先をまつています。小針村は旧名を尾張村と言い、尾張氏一族が開拓した村と伝えられています。尾張神社の参道入口には、昭和15年(1940)に青年団が建てた「尾張名称発源地」碑が建っています。

- 39 宇都宮神社内にある歌碑「飛車山 ふもとに見えし 里の名はたが言いそめて
こきといふらん」の短歌の作者はだれでしょう。

宇都宮神社の宮司によると、歌碑の石は、古墳のふたであるという言い伝えがあるそうです。これに刻まれている歌は、在原業平が東下りのとき、この辺りに立ち寄って作ったと伝えられている古文書（船橋新治氏蔵）に書かれているもので、「こき（小木）の地名があり、歌碑に刻むのにふさわしい」ということで引用されました。歌碑は昭和60年（1985）に建立されました。

- 40 愛知県の焼き物の産地としては瀬戸が有名ですが、小牧でも明治時代後期に「小牧焼」といわれる陶器が作られるようになりました。この「小牧焼」を始めた人はだれでしょう。

明治時代後期に小牧町の斉藤圀次郎が、焼き物に大変興味を持っており、多治見で陶器を作る技術を習得しました。その後、明治39年（1906）頃から「小牧焼」と言われる茶碗、皿、鉢、徳利などの日用陶器類が盛んに製造されるようになりました。「小牧焼」は、主に名古屋や岡崎方面で販売されました。

- 41 『小牧町史』をはじめ、『北里村史』『東春日井郡誌』などを書き、郷土歴史家として小牧の歴史を詳しく調べた地元出身の人はだれでしょう。

津田応助は、長年に渡り郷土歴史家として活動し、『小牧町史』など数多くの郷土史書を編纂しました。昭和36年（1961）には、応助を慕う人々が顕彰碑を建て、「象山文庫」を設立しています。

- 42 三ツ淵にある正眼寺の銅造誕生釈迦仏立像は、7世紀中頃の製作と見られています。昭和63年（1988）に国の重要文化財に指定され、現在は奈良国立博物館で展示公開されています。この像の高さはどのくらいでしょう。

像高8.2センチメートルの小像ですが、金のめっきも厚く美しく、飛鳥時代の金銅仏の特徴がよく伝えられています。この像は、釈迦が誕生したとき、右手で天を指し、左手で大地を指して「天上天下唯我独尊」と唱えたという姿をかたどったものです。灌仏会の際には、この誕生仏に甘茶をかけてお祝いします。

※灌仏会・・・釈迦の誕生を祝う仏教行事である。日本では原則として毎年4月8日に行われる。

- 43 小牧・長久手の戦いの際、小牧山の近くに蟹清水 砦 という織田信雄・徳川家康連合軍の砦が築かれました。この砦は、元々は織田信長による小牧山城 築城の際に、信長の家臣が建てた屋敷を修復したものだと言われています。この家臣はだれでしょう。

小牧・長久手の戦いの際、小牧山に陣を敷いた織田信雄・徳川家康連合軍によって蟹清水 砦が築かれた場所には、元々は丹羽長秀が建てたと言われている屋敷があり、その屋敷を修復して砦としました。砦の大きさは東西46間、南北61間あったとされています。信雄・家康連合軍は、蟹清水砦を北外山砦、宇多津(哥津)砦、田楽砦と結んで小牧山右翼に連なる砦を形成して秀吉方の陣地に対抗し、守備しました。

※間・・長さの単位。1間＝約1.8メートル。

- 44 毎年10月第2日曜日に大草の大久佐八幡宮の祭礼で奉納される「大草棒の手」には、多くの技があります。この「大草棒の手」のもととなった神影流を始めた人はだれでしょう。

日本武術の形を踊りにした伝統芸能のことを、愛知県近辺では「棒の手」と呼びます。「大草棒の手」のもととなった神影流を始めたのは、源義経だと言われています。伝承によると、この新影流の達人である伊庭軍兵衛が大草の地に伝わっていた棒術を復活させ、受け継いできたとされています。戦後一時途絶えましたが、昭和58年(1983)に、保存会を結成して復活させ、伝承に努めています。小牧市内で伝承され残っているもう一つの「棒の手」である「野口棒の手」は、八幡太郎(源)義家が始めたと言われる源氏天流がもととなっています。

- 45 篠岡地区には、小学校5校(陶・桃ヶ丘・篠岡・大城・光ヶ丘)があります。この中で一番古い小学校はどこでしょう。

開校した年は、次のとおりです。篠岡小(明治42年(1909))・桃ヶ丘小(昭和51年(1976))・陶小(昭和60年(1985))・光ヶ丘小(昭和63年(1988))・大城小(平成2年(1990))。

また、中学校は3校あり、開校した年は、次のとおりです。篠岡中(昭和22年(1947))・桃陵中(昭和57年(1982))・光ヶ丘中(平成2年(1990))。

- 46 「絹本着色文殊菩薩像」や「鑄鉄千手観音菩薩立像」など、国の史跡にも指定されている大山廃寺の遺物と思われるゆかりの品を多数保管しているお寺はどこでしょう。

江岩寺は元亀2年(1571)に創建された臨済宗妙心寺派の寺院です。大山廃寺の付近にありましたが、明治36年(1903)頃、現在の場所に移転されました。大山廃寺の遺物と思われる品を多数収蔵しています。

- 47 慶長14年(1609)、徳川家康が城を築くよう命令したため、石垣用の大きな石が大量に必要となり、岩崎山からもたくさんの石が切り出されました。この城は何という城でしょう。

名古屋城の石垣を築くために、岩崎山からたくさんの石が切り出されました。誰が掘った石なのか、掘り出し中なのかの区別が必要となり、大名や家来が刻紋と呼ばれる目印を付けさせました。今でも、岩崎山のあちこちに、矢穴や刻紋が見られます。
※矢穴・石を割るためにくさび(=物を割ったりするときなどに使う道具)を打ち込んだ跡。

- 48 北里小学校の正門の東側には「忠魂碑」があります。その「忠魂碑」という文字を書いたのは、小牧市出身の陸軍大將で昭和11年(1936)に発生した二・二六事件により犠牲となった人物です。その人物はだれでしょう

渡辺錠太郎(明治7年(1874)～昭和11年(1936))は、明治33年(1900)に陸軍大学校を卒業し、明治37年(1904)の日露戦争にも参加しています。昭和6年(1931)に陸軍大將となり、昭和10年(1935)には陸軍教育総監となりましたが、二・二六事件で殺されました。
※忠魂碑・戦争で戦死した人を弔う石碑。

- 49 ^{あじおか}味岡駅の西側、^{しんこつつ}新木津用水のとなりにあった^{てい}清流亭は、^{えど}江戸時代には^{うわかい}上街道沿いにあり、茶店を^{いとな}営んでいました。そこで名物として行き交う人々に喜ばれていたという茶菓子は何でしょう。

^{てい}清流亭は、愛知県の天然記念物に指定されている^{ふじ}藤があることで有名な料亭でしたが、現在は^{はいぎょう}廃業し、建物も取りこわされています。清流亭が茶店の時代には、上流の大口町から石を運ぶ^{ふね}舟が^{しんこつつ}新木津用水を通ることがあり、清流亭横で舟を泊め、「ういろう」と茶で一休みしていたそうです。昭和初期に料亭が^{いとな}営まれることになってからも、昭和30年ごろまで「ういろう」が売られていました。

- 50 全国的に有名なブランド^{どり}鶏になった名古屋コーチンは小牧でうまれました。^{いけ}池之内の大泉寺には、名古屋コーチンを作り上げた人の^{はか}墓があります。だれの墓でしょう。

明治のはじめ、^{いけばやし}池林村で元尾張藩士の^{おわりはんし}海部^{かいふ}荘^{そう}平と弟の^{まさひで}正秀が、中国から入手したバフコーチンと^{ぎふじどり}岐阜地鶏を交配して産まれた^{にわとり}鶏からつくりあげたのが名古屋コーチンです。肉質がよく、今では日本を代表する^{にわとり}鶏の品種となりました。

- 51 小牧にはキツネの伝説が多く残っています。その一つに、小牧山に住んでいたあるキツネの伝説があります。そのキツネの名前は何でしょう。

小牧山に、^{きちごろう}吉五郎というキツネが住んでいました。子分が^{びき}200匹もいる、この地方のキツネの親分でした。この吉五郎の伝説は、^{えど}江戸時代につくられて広まりました。^{きょうど}郷土歴史家の^{つだおうすけ}津田^{ろうこ}応助が、この話を『伝説老孤小牧山吉五郎』という本にまとめて、^{げんざい}現在に伝わっています。小牧市民まつりのマスコットキャラクター「きっちゃん」は、吉五郎をモデルにしたものです。

- 52 ^{しゆく}小牧宿から、^{こき}小木を通り^{きよす}清洲へつながる道は、^{かいどう}清洲道や^よ清洲小牧街道と呼ばれていました。その他には何という名前と呼ばれていたでしょう。

^{きよす}清洲道は、^{おだ}織田信長が^{きよす}清須から^{しろ}小牧へ^{うつ}城を移したときに^{せいび}整備されました。この道を通って、海部郡方面から出る灰を清須の間屋が売り、これを小牧の農民が^{にぐるま}荷車で買いに行くときに、よく灰が道にこぼれたので灰取^{とりかいどう}街道とも呼ばれました。

- 53 小牧市東部の篠岡地区は、7世紀から11世紀にかけて、尾張地方の窯業生産の中心地でした。110基以上の窯跡が見つかり、それらは篠岡古窯跡群と呼ばれています。この地域の窯は半地下式のものですが、何と呼ばれていたでしょう。

篠岡地区は、7世紀から11世紀にかけて、猿投窯とならんで尾張地方の窯業生産の中心地でした。窯は丘陵の斜面に細長い溝状の穴を掘り、粘土で天井をつくった半地下式の「あな窯」と呼ばれるもので、7～8世紀には須恵器が、9世紀後半からは灰釉陶器が焼かれていました。篠岡78号窯から出土した須恵器に書かれた文字が、奈良藤原京で出土した須恵器にあった文字とよく似ており、篠岡の器が遠く奈良まで運ばれていたことが分かっています。

- 54 大草にある福厳寺には、山門の前にめずらしい宝篋印塔があります。この宝篋印塔は、何でできているでしょう。

福厳寺の宝篋印塔は、天保6年(1835)の製作で福厳寺山門入口左手にあって、台石からすべて陶器でできています。普通は、金属製や石造のものが多く、陶器のものはとても珍しいそうです。
※宝篋印塔・墓塔・供養塔などに使われる仏塔の一種。

- 55 約400年ほど前に、濃尾平野に広がるあれ地に用水を引き、多くの田畑を開きたいと考えた人々(入鹿六人衆)が、寛永10年(1633)に犬山の入鹿村の南口をせき止めてため池(入鹿池)をつくり、入鹿用水が引かれることになりました。入鹿六人衆とはだれでしょう。

入鹿六人衆は、江戸時代初期の尾張東北部の農民のまとめ役で、江崎善左衛門、船橋仁左衛門、丹羽又兵衛、鈴木久兵衛、落合新八郎、鈴木作右衛門の6人です。丹羽又兵衛以外は武士の出ということが分かっています。六人衆の中心である江崎善左衛門は、尾張国春日井郡小牧村の郷士で、その父親は織田家家臣として、名古屋から中山道へ通じる木曾街道の小牧宿の開設に力を尽くし、本陣を務めました。

- 56 小牧市の東部地域で愛知県が中心になって大規模住宅開発を行い、昭和55年(1980)から一部地域への入居が始まり、新しい街がつけられました。この大規模住宅地は何と呼ばれているでしょう。

小牧市東部の篠岡地区は、起伏の多い丘陵地帯が大部分を占めており、一部には江戸時代後期から昭和中期にかけて盛んに掘られた亜炭鉱の跡などが残る荒れ地も見られる地域でした。そうした地形的な制約から、市内の他地域に比べ人口が少ない地域でした。昭和48年(1973)から愛知県が事業の中心となって「桃花台ニュータウン」の造成工事が始まり、現在では約1万人の住民が暮らしています。

- 57 小牧山は、江戸時代には尾張徳川家が所有しており、徳川家康ゆかりの地として一般の人々の立ち入りを禁止していましたが、明治時代になると愛知県の所有となり、県立公園として一般に公開されました。その後、明治21年(1888)に貴賓館としての機能をもった建物が山頂付近に建設されましたが、この建物を何というでしょう。
※貴賓館・名誉・地位のある客人を招く建物。

小牧山が明治2年(1869)に愛知県の所有となった後、明治21年(1888)に県知事の発案により、貴賓館として建てられたのが「創垂館」です。間口が10間、奥行5間半の平屋建て木造建築で10畳と16畳半の2部屋や書院、厨房も備えられていました。

- 58 昭和57年(1982)9月に小牧市から初めて訪問して以来、毎年、夏休み中に市内の児童が学習交流で訪問しているのはどこでしょう。

明治10年(1877)尾張徳川家第17代徳川慶勝は、禄(収入)を失った旧藩士のために、北海道開拓を志し、彼らを遊楽部へ移住させました。その際に開拓した土地が現在の八雲町のはじまりです。小牧市は、尾張徳川家第20代徳川義知氏の提言をきっかけとして、八雲町と友好都市となり、夏には小牧市から八雲町へ、冬には八雲町から小牧市へお互いの児童が訪問して交流を深めています。

- 59 味岡地区の東田中には、古墳時代に古墳群が存在していましたが、今は方墳が1基残っているだけです。現存する1基を含めて、古墳時代にはいくつ古墳があったでしょう。

かつて、一辺 20 メートルほどの3基の方墳が、国道 155 号沿いの東田中老人憩いの家のすぐ西側にありました。しかし、国道の拡張工事にともない2基が消滅してしまいました。これらを三ツ山古墳群と言います。

- 60 小牧五丁目の小牧神明社の秋祭は、江戸時代から小牧宿の祭の一つとして、春の神明社の小牧祭、夏の秋葉祭と並び、秋の馬祭として親しまれてきました。どんな奉納神事が行われているでしょう。

秋の馬祭として親しまれてきた秋祭は、小牧宿の各地区が馬の塔（オマント）を出して奉納するものでした。農耕馬の減少とともにオマントの奉納は衰退し、最近では、東町の五本棒オマントだけになりました。五本棒オマント奉納神事は、平成 16 年(2004)に市の無形民俗文化財に指定されています。

出題に関わる参考文献

『小牧市史』

『小牧の文化財』『小牧叢書』

『小牧市文化財図録』『小牧の文化財散歩』

『小牧の寺院』『小牧の神社』

『味岡之庄の歴史』『北里教育百年の歩み』

『小牧の文化財地図 訪ね歩きマップ 味岡地区、篠岡地区、小牧地区』

『社会科副読本 こまき』『社会科副読本 小牧』

『篠岡百話』

『北里仏教会・寺院のあゆみ』

『J A尾張中央 ふれあい』